

保健師職能だより

2024年2月発行
発行：大分県看護協会 保健師職能委員会

令和5年度 県内で働く保健師は817人 (R5.6月時点)

() はR4年度数値

総計	市町村	県	健診機関	産業保健	地域包括支援センター	福祉関係	その他			合計
							病院・診療所	教育・研究機関	その他	
正規	391(387)	128(124)	37(39)	41(38)	28(53)	4(6)	49(50)	14(13)	9(6)	701(716)
嘱託(臨時含)	60(58)	22(23)	4(5)	2(6)	8(4)	1(4)	4(3)	2(1)	13(13)	116(117)
合計	451(445)	150(147)	41(44)	43(44)	36(57)	5(10)	53(53)	16(14)	22(19)	817(833)

参考：「R5年度保健師・栄養士名簿」(大分県福祉保健部健康づくり支援課)を基に集計

保健師ミーティングを開催

日時：令和5年10月14日(土)

参加者：72人(新任期：50人 中堅期9人 管理期5人 職能委員8人)

講演

「住民主体の保健活動～これからの保健師活動への期待をこめて～」

講師 竹田市社会福祉協議会 会長 木部眞里子氏

行政の保健師から地域包括支援センターと50年以上にわたり地域に根差した保健師活動を実践されている先生にご講演いただきました。住民主体の保健活動は、「統計や住民の声を把握した事業展開、地域の専門職との連携・協働、保健師が専門性を持ち取り組むこと」が重要で、後輩保健師に「何よりも楽しく仕事ができること、市民が正しい情報を選択できるように」と応援をいただきました。



実践報告

「保健師活動の振り返り」

大分県豊肥保健所より永家実歩さん(新任期)、村上智子さん(指導者)に日ごろの保健活動の振り返りを報告していただきました。



参加者の声

- ・他職種との連携の必要性を感じていたため、発表を聞いて共感できた。
- ・個人の関わりから地域を見ていくことが必要だと感じた。
- ・新任期とプリセプターの報連相の重要性を改めて実感した。

看護職連携強化交流会を開催

日時：令和5年12月2日(土)

参加者：215人(会場71人 Web144人)

シンポジウム テーマ：「在宅療養を支えるための、つながる看護～看看連携の実践を通して～」

3職能から報告があり、保健師職能からは臼杵市保険健康課 吉田保健師より「臼杵市の糖尿病性腎症重症化予防における看看連携について」をテーマに、医療、行政、保険者の垣根を越えた糖尿病性腎症対策についてご報告をいただきました。保健指導内容をマニュアル化したり、市保健師と病院看護師・栄養士が協働で訪問指導を行うなどして、医療機関と行政が課題を共有することで、対象者に合った診療・保健指導につながっているとのことでした。



特別講演 「在宅療養を支える看護職間の連携強化」 講師：関西看護医療大学 教授 箕浦洋子氏

「高齢化に伴い、入退院の繰り返しを想定したケアが求められる中、医療・介護・自治体など各職種が連携し、それぞれが持つ情報を集めてつながりを分析していくことが大切。そのためには地域を一つのチームとして捉え、医療機関と地域が連携していくことが重要。そのコーディネートができるのは生活と身体の両方を見る看護職である。」とお話をいただきました。

～産業保健、地域包括支援センター等の保健師さんの参加も募集しています～

大分県の働き世代の健康づくりの促進や地域包括ケア推進のため、産業保健や地域包括支援センター等で働く皆さんも、同じ保健師として協会事業に参加し互いに情報を共有してみませんか？看護協会への新規入会もお待ちしています。